

【一宮館主賞】 井口 泰子

母への手紙 井口 泰子

母さん、会いに行けなくてごめんなさい。

コロナ禍で、母さんの入居施設が面会禁止なのです。

困っていることは、ありませんか。辛い思いをしていませんか。食欲はありますか。

眠れていますか。 母さんが施設に入って、1年が過ぎました。

母さんに最後に会ったのは、1月でした。今は10月です。

9ヶ月も母さんに会っていません。

1月に行った時、施設内は暖かく、お風呂上がりの母さんは、半袖で気持ちよさそうでした。

職員が、母さんのことを話してくれました。自分からは話さないが、話しかけると静かに微笑んで答えること。歩行器を使っている母さんは、車椅子の人が通ると、すぐ端によけること。食事の時、卓上のティッシュが取りにくい人がいると、その人の方へそうっと近づけること。

母さんのことをたくさん褒めてくれました。私は嬉しかったです。

集団生活が苦手な母さんが、相手のことを思って行動していました。

時折、施設の都合のよい時間を考え、電話をします。私がかけると、職員が子機を持って母さんの部屋に行きます。受話器から母さんの「もしもし」という声が聞こえると、私は胸が詰まります。母さんは耳が遠いので会話は難しいですが、元気でいたことを確認できて少しほっとします。

本当は、母さんの顔を見ることができれば、もっと安心できるのですが。

私は、週に1回、葉書を書きます。絵葉書を使ったり、パソコンで絵を書いたりして送ります。

母さんは、書くのが苦手なので返事はきませんが、私はこれからも書きます。

書くことで、母さんが近くにいるように感じるからです。

母さん、元気でいてください。コロナ禍が収束したら、すぐ、会いに行きます。

私は、母さんに飛びつき、泣いてしまうでしょう。

(神奈川県/70歳/女性/無職)

コロナ禍で母に会えない辛さを書きたいと思い、手紙の相手は、母以外考えられませんでした。また、母が子どもに会えない寂しさ、悲しさを考えました。母への想いをありのままに書き、大切に想っていることを伝えたいと思いました。